

# 2021年度 形成外科医局説明会

1

## 沿革

- ❖ 1977 (S52) 形成外科診療科 整形外科より分離設立
- ❖ 1982 (S57) 形成外科学講座開設（奈良 卓教授）
- ❖ 1997 (H9) 3月 奈良 卓 教授 退任  
9月 小林誠一郎 教授 就任
- ❖ 2016 (H28) 3月 小林誠一郎 教授 退任  
4月 柏 克彦 教授 主任教授就任
- ❖ 2016(H28) 9月 櫻庭 実 教授 就任
- ❖ 2018(H30) 8月 櫻庭 実教授 主任教授就任

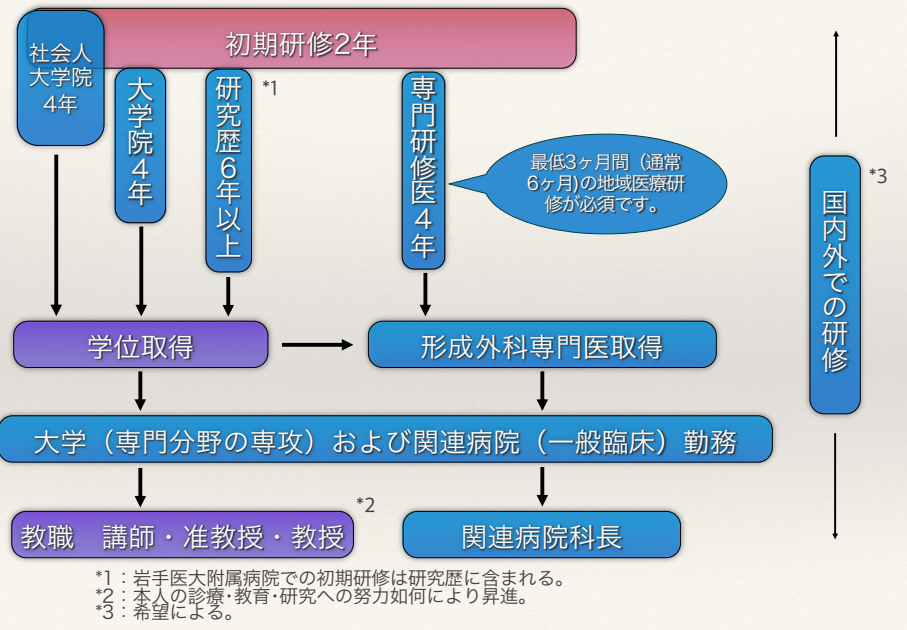
2

# 学内スタッフ

| 氏名    | 役職         | 出身大学     | 出身地  |
|-------|------------|----------|------|
| 櫻庭 実  | 主任教授       | 弘前大学     | 青森県  |
| 本多孝之  | 特任准教授      | 弘前大学     | 岩手県  |
| 新井雪彦  | 助教         | 秋田大学     | 岩手県  |
| 小野寺文  | 助教         | 山形大学     | 岩手県  |
| 東 修智  | 助教         | 慶應義塾大学   | 大阪府  |
| 佐々木孝輔 | 任期付助教      | 岩手医科大学   | 岩手県  |
| 曾根 至  | 専門研修医      | 山形大学     | 岩手県  |
| 益田泰光  | 専門研修医      | 奈良県立医科大学 | 大阪府  |
| 山崎友和  | 専門研修医      | 岩手医科大学   | 静岡県  |
| 中村麻由  | 専門研修医      | 東京医科歯科大学 | 神奈川県 |
| 菅原隆二郎 | 専門研修医      | 岩手医科大学   | 岩手県  |
| 浅井俊成  | 大学院生（臨床病理） | 秋田大学     | 大阪府  |

3

# ライフプラン



4

## 関連研修施設

- ❖ 常勤医師派遣病院  
 岩手県立中央病院(3)・岩手県立磐井病院(2)・岩手県立宮古病院(2)  
 岩手県立中部病院(1)・岩手県立久慈病院(1)・かづの厚生病院(1)  
 (赤で示した病院には専攻医がローテートで勤務しています)
- ❖ 非常勤医師派遣病院  
 岩手県立釜石病院・岩手県立大船渡病院・栃内病院・  
 青森県立中央病院・八戸赤十字病院・能代厚生医療センター・  
 三沢中央病院・三愛病院 他
- ❖ 専門研修連携施設  
 奈良県立医科大学、日本医科大学、東京医科歯科大学、岡山大学

5

## 国内外での研修

- ❖ Gent大学（ベルギー） 櫻庭教授、小野寺文
- ❖ Harvard大学（アメリカ） 本庄省五客員教授
- ❖ New York大学（アメリカ） 藤原仁美
- ❖ Chang Gung Memorial Hospital（台湾） 本多孝之
- ❖ 国立がんセンター（柏市） 櫻庭教授前任地、柏克彦、木村裕明
- ❖ 聖隷浜松病院手外科マイクロサージャリーセンター（浜松市）  
 新井雪彦

6



# 形成外科領域専門医

形成外科学会ホームページより抜粋

## 第4章 専門医の認定を申請するものの資格

### 第18条(専門医申請資格)

専門医申請資格は、以下の各項を充足するものとする。

- (1)6年以上日本国医師免許証を有するもの
- (2)臨床研修2年の後、資格を有する研修施設において通算4年以上の形成外科研修を行うこと。
- (3)第19条に定める研修を終了し、第20条に定める記録を有するもの
- (4)日本形成外科学会主催の講習会(学術研修会あるいはインストラクショナル・コース)受講証明書を4枚以上有すること。
- (5)少なくとも1編以上の形成外科に関する論文を筆頭著者として発表しているもの(発表誌は年2回以上定期発行され、査読のあるものとする)。

7

### 第19条(研修の条件)

#### 1. 研修期間

形成外科研修は4年以上とする。但し義務化された臨床研修期間中の形成外科研修は含まない。この規定は第98回日本国医師国家試験合格者以降の者に適用する。それに該当しない者については、これと同等以上の形成外科研修を修了したと専門医認定委員会が認定したものは可とする。

ただし、大学院生、時短勤務者や非常勤医などの研修期間に関しては、週32時間(ただし1日8時間以内)以上形成外科の臨床研修に携わったものはフルカウントできる。なお、臨床研修が週32時間に満たなくとも、日本専門医機構(以下、機構)の形成外科領域研修委員会が認めた場合には、勤務時間に応じて分数でのカウントもあり得る。研修の実状は当該科の所属長、または施設長が責任をもって認定する。なお申請内容に疑義が生じた場合、専門委員会で審議することがある。

#### 2. 研修施設

形成外科研修については、学会が認定し、機構に報告した専門研修基幹施設あるいは専門研修連携施設および研修連携候補施設とする。地域に密着した形成外科医療を研修するための地域医療研修に関しては、上記以外の施設についても専門研修プログラム内に明示した上で承認をうければ、地域医療研修施設として専門研修期間内の研修が認められる。ただし、専門研修基幹施設で最低6ヵ月の研修を必要とする。

8

## 第20条(研修記録)

1. 第18条第3項の記録とは研修期間に行った次の項目の記録をいう。
  - (1) 申請者の受け持った患者で直接手術に関与した300症例の症例一覧表（うち80症例以上は術者）
  - (2) 申請者が術者として手術を行った10症例についての所定の病歴要約
  - (3) (1)の症例は専門研修プログラム内に明示してある施設で上級医師のもとで関与した者について認められる。(2)の症例は、専門研修基幹施設あるいは専門研修連携施設において指導医のもとで行った症例に限る。
2. 前項(2)、(3)の症例にはそれぞれ以下の11項目中8項目以上を含まねばならない。
  1. 新鮮熱傷(全身管理を要する非手術例を含む)
  2. 顔面骨折および顔面軟部組織損傷
  3. 唇裂・口蓋裂
  4. 手、足の先天異常、外傷
  5. その他の先天異常
  6. 母斑、血管腫、良性腫瘍
  7. 悪性腫瘍およびそれに関連する再建
  8. 瘢痕、瘢痕拘縮、ケロイド
  9. 褥瘡、難治性潰瘍
  10. 美容外科
  11. その他

ただし、同一症例の同一部位は、1項目としてのみ適用される。同一症例の同一部位は、一人の研修者の記録としてのみ適用される。同一症例であっても、疾患、部位が異なる場合は、この限りではない。

9

## 形成外科領域専門研修における必要経験症例一覧

|                 | 経験症例数 | 経験執刀数 |                                                                     |
|-----------------|-------|-------|---------------------------------------------------------------------|
| I 外傷            | 60    | 10    | 上肢・下肢の外傷、外傷後の組織欠損（二次再建）、顔面骨折、顔面軟部組織損傷、頭部・頸部・体幹の外傷、熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷、など |
| II 先天異常         | 15    | 4     | 頸部の先天異常、四肢の先天異常、唇裂・口蓋裂、体幹（その他）の先天異常、頭蓋・顎・顔面の先天異常、など                 |
| III 腫瘍          | 90    | 18    | 悪性腫瘍、腫瘍の続発症、腫瘍切除後の組織欠損（一次・二次再建）、良性腫瘍、など                             |
| IV 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド | 15    | 3     | 肥厚性瘢痕・ケロイド、瘢痕拘縮                                                     |
| V 難治性潰瘍         | 25    | 3     | 褥瘡、その他の潰瘍（下腿・足潰瘍を含む）、など                                             |
| VI 炎症・変性疾患      |       |       | 顔面神経麻痺、手足の炎症・変性疾患、                                                  |
| VII その他         |       |       | その他（眼瞼下垂、腋臭症、など）                                                    |
| VI VII合わせて      | 15    | 2     |                                                                     |
| VIII 美容外科       |       |       | 手術、処置（非手術、レーザーを含む）                                                  |
| 指定症例の総計         | 220   | 40    |                                                                     |
| 自由選択枠           | 80    | 40    |                                                                     |
| 総合計症例数          | 300   | 80    |                                                                     |

10

| 区 分              | 件 数     |             |              |         |             |              | 計    |
|------------------|---------|-------------|--------------|---------|-------------|--------------|------|
|                  | 入 院 手 術 |             |              | 外 来 手 術 |             |              |      |
|                  | 全身麻酔    | 腰麻・<br>伝達麻酔 | 局所麻酔・<br>その他 | 全身麻酔    | 腰麻・<br>伝達麻酔 | 局所麻酔・<br>その他 |      |
| I. 外傷            | 131     | 6           | 11           |         |             | 32           | 180  |
| II. 先天異常         | 190     |             | 2            |         |             | 9            | 201  |
| III. 腫瘍          | 296     | 1           | 10           |         | 1           | 104          | 412  |
| IV. 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド | 35      |             | 4            |         |             | 30           | 69   |
| V. 難治性潰瘍         | 63      | 3           | 22           |         |             | 9            | 97   |
| VI. 炎症・変性疾患      | 13      |             |              |         |             | 7            | 20   |
| VII. 美容（手術）      | 1       |             |              |         |             | 6            | 7    |
| VIII. その他        | 32      |             | 9            |         |             | 21           | 62   |
| Extra. レーザー治療    | 39      |             | 3            |         |             | 178          | 220  |
| 大分類計             | 800     | 10          | 61           | 0       | 1           | 396          | 1268 |

2020手術実績

11

|     | 習得すべき手術手技                                                   | 担当する主な疾患                    |
|-----|-------------------------------------------------------------|-----------------------------|
| 1年次 | 切除・縫合の基礎手術手技、助手としての基本介助手技、外傷の処置、簡単な先天異常・良性腫瘍など              | 小腫瘍、新鮮外傷、各グループでの取り扱い疾患      |
| 2年次 | 潰瘍に対する植皮、骨折整復の簡単なもの、簡単な局所皮弁、レーザー治療など                        | 新鮮熱傷・外傷などによる潰瘍、鼻骨骨折、頬骨弓骨折   |
| 3年次 | 簡単な動脈皮弁の挙上、局所皮弁法、顔面骨折の複雑なもの、四肢・顔面先天異常に対する手技など               | 母斑・腫瘍切除後などの欠損の再建、瘢痕拘縮の治療、褥瘡 |
| 4年次 | 各種先天異常の再建、皮弁・筋皮弁を用いた再建、動物実験による微小血管吻合手技、微小血管吻合を要する疾患の助手・執刀など | 先天性疾患、頭頸部再建、皮弁移植を要する各種疾患    |

12



### 各領域（subspeciality）の専門医・指導専門医

日常診療において最も患者数の多い疾患分野を対象とし、形成外科診療の各領域（subspeciality）の専門医・指導専門医制度があります。

#### 1. 創傷外科専門医

創傷治療の基本、熱傷・外傷などの急性創傷や褥瘡(床ずれ)・下腿潰瘍などの慢性創傷、ケロイドや肥厚性瘢痕などを対象に、より高度な治療技術を有す医師です。  
日本創傷外科学会 (<http://jsswc.umin.jp/>) が認定します。

#### 2. 頭蓋顎顔面外科専門医

顔面の骨の骨折や変形、唇や耳の生まれつきの欠損、まぶたや鼻の怪我など、顔面を中心とした変形を対象に、より高度な治療技術を有す医師です。  
日本頭蓋顎顔面外科学会 (<http://www.jscmfs.org/>) が認定します。

#### 3. 皮膚腫瘍外科分野指導医

皮膚・皮下組織に生じる良性腫瘍および悪性腫瘍を対象に、より高度な切除、リンパ節廓清、再建外科治療技術を有す医師です。  
日本形成外科学会特定分野指導医認定委員会が認定します。

#### 4. 小児形成外科分野指導医

小児を対象とした、形成外科的疾患（先天異常、外傷、腫瘍等）に対し高度な治療技術を有す医師です。  
日本形成外科学会特定分野指導医認定委員会が認定します。

#### 5. 再建・マイクロサージャリー分野指導医

マイクロサージャリーによる組織再建に対し高度な治療技術を有する医師です。  
日本形成外科学会特定分野指導医認定委員会が認定します。

13

### 各領域（subspeciality）の専門医・指導専門医

前述の日本創傷外科学会、日本頭蓋顎顔面外科学会に加え、以下の学会が認定する専門医資格を有した上で、分野指導医を認定する

1. 日本手外科学会
2. 日本美容外科学会（JSAPS）
3. 日本熱傷学会

14

## 2022年度専門研修医募集

- ❖ 募集定員；3名
- ❖ 募集開始時期；2021年9月1日（予定）
- ❖ 選考時期；2021年10月（予定）
- ❖ 給与；月額280,000円+宿日直手当+時間外手当  
（岩手医科大学専門研修医規定に準ずる）+外勤  
給与
- ❖ 大学内の定員は2名です。このため、定員3名のうち2  
名が大学、1名が学外の病院で研修となるようにロー  
テーションして頂きます。
- ❖ 学外の病院における給与は各病院の規定となります。

15

## 連絡先

岩手医科大学 医学部 形成外科学講座  
028-3695 岩手県紫波郡矢巾町医大通2-1-1

TEL 019-613-7111 （内線6571）

FAX 019-907-6648

URL; <http://pras.iwate-med.ac.jp>

医局長 本多孝之

[hondat@iwate-med.ac.jp](mailto:hondat@iwate-med.ac.jp)

または、話しやすい医局員の先生や各病院の先生へご連絡ください

16